



平成31年4月12日
国土交通省国土地理院

(お知らせ)

社会の発展と共に満150年を迎えました！

～近代測量150年 大分県の「道の駅水辺の郷おおやま」でパネル展を開催～

本年(2019年)は、明治政府に近代測量を行う機関が設置された1869年(明治2年)から満150年に当たります。国土地理院及び関係団体は「近代測量150年」と位置づけています。

この近代測量150年の節目に、大分県の「道の駅水辺の郷おおやま」でパネル展を開催します。

2019年は、明治政府に近代測量を行う機関として、国土地理院の前身である「^{みんぶくあんしよむつかさこせきちず}民部官庶務司戸籍地図^{かかり}掛」が設置された1869年(明治2年)から満150年に当たります。

国土の開発事業の土台と言える測量・地図作製は、国の基本的な形を築き上げた多岐にわたる近代化への国家プロジェクトの一つとも言えます。

明治から平成、そして新しい時代へ、国土を正確に把握し、管理するために実施した測量や地図作製は、第二次世界大戦以降の戦後復興、高度経済成長、防災対策等のインフラ整備の支えとなり、社会に果たす役割は非常に大きいものになっています。

今回、大分県の道の駅水辺の郷おおやまでパネル展を開催し、社会の発展を支えてきた近代測量の歩みを紹介します。

さらに、人工衛星を利用した測量、ウェブ地図「地理院地図」、近年頻発する災害への対応など、国土地理院のさまざまな取組も合わせて展示します。九州管内16箇所で順次開催していく予定です。

1. 開催期間

平成31年4月17日から5月12日

2. 開催場所

道の駅「水辺の郷おおやま」

(大分県日田市大山町西大山 4106 番地)

3. 内 容

「近代測量150年」及び「国土地理院の取組」に関するパネル展示

※取材を希望される方は、九州地方測量部
(092-411-7903)へ事前にご連絡ください。

「近代測量150年」とは

2019年は、明治政府に近代測量を行う機関が設置された明治2年(1869年)から満150年に当たります。

国土交通省国土地理院では、「近代測量150年」の節目に、これまでの歩みと発展を明らかにするとともに、測量・地図作成の役割や重要性について理解を深めていただくため、全国の「道の駅」においてパネル展を開催しています。

明治
1909年(明治42年)
明治期、経緯儀などを使い、三角測量と呼ばれる方法で測量をしていました。

大正
1916年(大正5年)
大正時代に建てられた測量用やぐらです。約45km離れた地点を観測します。

昭和
1983年(昭和58年)
昭和35年に「くにかぜ」による空からの測量が開始されました。

平成
地理院地図
そして新しい時代
宇宙測地技術を利用した測量や、ドローンの活用など、測量技術は日々進歩しています！

国土交通省 国土地理院

(問い合わせ先)

〒812-0013 福岡県福岡市博多区博多駅東2-11-1 福岡合同庁舎 国土交通省国土地理院
九州地方測量部 次 長 山本 宏章 TEL 092-411-7902 (直通)
管理課長 石川 明彦 TEL 092-411-7903 (直通)
FAX 092-411-7882